学校番号	J3026

令和８年度　家庭科

学年	2	週授業コマ数	1	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	○
使用教科書	技術・家庭　家庭分野(教育図書)						
副教材等	家庭分野（暮らしを創造する）（教育図書）ワークノート						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業で考える場面では自分の生活と照らし合わせ、自分のこととして進んで考えてみましょう。また、積極的に経験や考えを発表し、お互いの考えを共有し深めていきましょう。実習での作業では、毎回の授業の課題を丁寧に進めていくことを目標としましょう。授業で習った知識や技能を、日常生活の中で積極的に実践してみましょう。一人でやってできるようになることが、最終目標です。

2　学習の到達目標

(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の　自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策　を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的 に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	住生活	C 衣生活・住生活と自立 住居について 快適に住まう	a：住居の基本的な機能。家族の生活と住空間との関わり、家族の安全を考えた住空間の整え方についての基礎的な理解。 b：家族・家庭や地域における生活の中から住生活について問題を見いだし、課題をもって考え、解決する力 c：住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。	テスト プリント等提出物	実習での理解度 課題の完成度	実習へ取り組む姿勢 授業への意欲､関心 プリント等提出物への記入状況
2	衣生活	C 衣生活・住生活の自立 作品の製作 生活を豊かにする物をつくる	a：衣服と社会生活との関わり、衣服の選択と着用、計画的な活用と手入れについての基礎的な理解と技能。 b：家族・家庭や地域における生活の中から衣生活について問題を見いだし、課題をもって考え、解決する力。 c：衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			
3	消費生活	D 身近な消費生活と環境	a：金銭の管理と購入についての基礎的な理解と技能。消費者の権利と責任についての基礎的な理解。 b：家族・家庭や地域における生活の中から消費生活・環境について問題を見いだし、課題をもって考え、解決する力。 c：身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度